

命の結果——神の建造のための宴席の家としての召会生活

聖書：ヨハネ 12:1-11

I. 命は人のあらゆる状況の必要に応じて、神の家を建造します——ヨハネ 2:18-22：

- A. 道徳的な人の必要は、命が再生することです—— 3:3, 6, 14-16, 29-30, 34。
- B. 不道徳な人の必要は、命が満足させることです—— 4:4-7, 10, 13-18, 24, 28-29, 34。
- C. 死にかかっている人の必要は、命がいやすことです—— 46-47, 50-53 節。
- D. 無力な人の必要は、命が生かすことです—— 5:2-3, 5-9, 17, 19, 25-26, 30, 39-40。
- E. 飢えている人の必要は、命が養うことです—— 6:5-13, 32-33, 35, 48-51, 57, 63。
- F. 渴いている人の必要は、命が渴きをいやすことです—— 7:37-39。
- G. 罪の束縛の下にある人の必要は、命が解放することです：
  - 1. 罪のない者はだれであるか？—— 8:1-9。
  - 2. 罪に定め、また罪を赦すことができるのは、だれであるか？—— 10-11 節。
  - 3. 人を罪から解放することができるのは、だれであるか？—— 12, 24, 28-30, 32, 36 節。
  - 4. 罪の源と罪の繁殖はだれであるか？—— 37-44 節。
  - 5. イエスはだれであるか？—— 45-46, 57-58 節。
- H. 宗教の中の盲人の必要は、命の視力と命の牧養です—— 9:1, 6-7, 24-25, 35-41. 10:9-16, 27-30。
- I. 死んだ人の必要は、命が復活させることです—— 11:1-6, 8-16, 21-28, 32-33, 38-44。

II. 命の結果は、宴席の家としての召会生活です——ヨハネ 12:1-11：

- A. 宴席の家は、復活の命によって生み出されます。召会は復活の命の産物です—— 11:43-44. コロサイ 2:13. エペソ 1:19-23。
- B. 宴席の家は、宗教の外にあり、ベタニヤのらい病の人シモンの家にありました——ヨハネ 12:1. マルコ 14:3. 参照、ヨハネ 11:53, 57. 12:10-11：
  - 1. もし主がわたしたちをあわれみ、彼の霊がわたしたちの目を開いてくださるなら、わたしたちは、神が宇宙の中で行なっていることは、ただ単に人々に彼を礼拝させ、彼に仕えさせることだけではないことを見るでしょう。この時代において、神の願いと意図は、御子の中で、彼の霊によって、彼の御言を通して人の中へと入って、人の命となり、人が彼のゆえに生きるようになることです。
  - 2. これは宗教や宗教的な観念とは完全に異なっています。宗教と、その教理、形式、儀式、規則は、キリストの臨在を持っておらず、また命の敵です。
- C. ベタニヤには、主が泊まり、安息し、宴席に着き、満足を得ることができる家がありました。ユダヤ教が彼を拒絶した後、彼はいつもエルサレムを離れて、ベタニヤに泊まりました——ヨハネ 12:1-2. マタイ 21:17-18。
- D. 召会は、らい病の人シモンによって代表される清められた罪人たちで構成されています。彼は主によっていやされたに違いありません——マルコ 14:3. マタイ 26:6：
  - 1. 彼は主に感激し、主を愛したので、自分の家で主と彼の弟子たちのために宴席を設けて、主の臨在を享受しました。救われた罪人はいつもこのようにします。

2. 主はすでにわたしたちを死人の中から復活させ、わたしたちの罪を清めました。  
今、わたしたちがいる所は召会が集会する場所となっています。
- E. 外側では、召会は貧しく、苦悩があるかもしれません。しかしながら、内側では、召会のあらゆるものは尊く、甘く、愛らしいのです。なぜなら、わたしたちの主の臨在に対する享受は豊富であるからです。わたしたちは主と共におり、主はわたしたちと共にいます——参照、1:23. エゼキエル 48:35 後半。
- F. 内側では、召会生活は主の臨在の中で、また主と共に宴席を楽しむ生活です——ヨハネ 12:2. 詩 16:11. 使徒 3:20 前半：
1. 召会生活の中で、わたしたちに必要な第一の事は、主の臨在です。主の臨在がなければ、召会生活は空っぽです——詩 27:4。
  2. 召会の中で、わたしたちと主は安息、享受、満足を得ます。ここにはいつも、主と彼の民のために用意された宴席があります。
  3. 召会は主が彼の民と共に享受することのできる場所であり、また彼の民が主と共にいることを享受することのできる場所です。召会は主と彼の民が共に集まって、互いに宴席に着き、互いに享受する場所です。
- G. 原則において、生き生きとした召会には、兄弟よりも多くの姉妹がいます——ヨハネ 12:2-3。
- H. 召会生活の中には、さまざまな機能があります。すなわち、仕え、証しし、主を愛する機能です：
1. 仕える機能は、マルタによって代表されています（2 節）。わたしたちはみなマルタに対する観念を変えなければならず、彼女を軽視してはいけません：
    - a. わたしたちはみな何人かの、主の中で勤勉で、能力があり、活発で、生き生きとした、実際的なマルタたちを必要とします。
    - b. 召会の奉仕の中で、最初に必要とする機能は、実際的な諸事を顧みることです。
  2. 証しする機能は、ラザロによって代表されています——2, 9-11 節：
    - a. ラザロは、主の復活の命の力の生ける証しまた証し人でした。
    - b. この証しは人に、復活の力、復活の命の現れ、命としての主の享受を感じさせます。
  3. 主を愛する機能は、マリアによって代表されています（2-3 節）。彼女は主を極みまで愛する人、持っている最も尊いものを主の上に注ぎ出す人を代表しています：
    - a. 彼女の評価において、主は他の何よりもさらに価値があり、さらに愛すべきものでした。
    - b. わたしたちの最上の愛をもって主に油を塗ることは、召会生活の主要な表現、主要な面、主要な特徴です。
    - c. 「その家は、膏油の香りで満たされた」（3 節後半）。召会はこの、主イエスに注がれた膏油の香りの尊さ、甘さ、喜ばしさで満たされている家にたとえられています——参照、列王下 4:9. II コリント 2:15. レビ 1:13。
    - d. ユダと他の弟子たちは、主にささげたマリアの愛を無駄遣いと考えました——マタイ 26:8-13. ヨハネ 12:4-6：

- (1) 過去の世紀を通じて、幾千幾万の貴重な命、心の宝、高貴な地位、輝かしい前途が、主イエスの上に「無駄遣い」されてきました。
  - (2) そのように主を愛する者たちにとって、主は全く愛らしく、彼らのささげ物にふさわしい方です。
  - (3) 彼らが主の上に注いだ物は、無駄遣いではなく、主の甘さの香ばしい証しです。
- e. キリストにある信者たちは、彼らの価値観を変えるべきです。キリストご自身は彼の信者たちにとって尊いものです—— I ペテロ 2:7. ピリピ 3:8-9. マタイ 23:16-26. サムエル上 16:7. ルカ 16:15. 9:54-56. I ペテロ 3:4 :
- (1) 信者たちの正しい価値観は、キリストと彼の完全な救いの、以下の各面に対する彼らの見方と評価に見られます :
    - (a) 主イエスに対する評価——詩 118:22. I ペテロ 2:7.
    - (b) 十字架の言葉に対する評価—— I コリント 1:18. I ペテロ 2:24. 3:18.
    - (c) 人の日常の必要と比較した、神の王国と神の義に対する評価——マタイ 6:32-33. II ペテロ 1:1, 11. 2:5. 3:13.
    - (d) 自分の親族と比較した、主イエスに対する評価——マタイ 10:37-38. ルカ 18:26-30. I ペテロ 1:1, 17. 2:11 前半.
    - (e) 全世界と比較した、人の魂に対する評価——マタイ 16:26. 4:8-11. 啓 18:13. I ペテロ 4:19.
    - (f) 罪の重大さと終局と比較した、自分の体に対する評価——マタイ 18:8-9. II ペテロ 3:10-13.
    - (g) 主の奴隷また互いに奴隷であることと比較した、宗教階級の地位に対する評価——マタイ 20:25-27. I ペテロ 2:16. II ペテロ 1:1.
    - (h) 地の宝と比較した、公義の宝としてのキリストに対する評価——ヨブ 22:23-28. マタイ 12:18-21. イザヤ 42:1-4. I ペテロ 1:18-20.
    - (i) 見えない褒賞と比較した、罪の享受に対する評価——ヘブル 11:24-27. I ペテロ 1:8-12. II ペテロ 1:8-11. 2:20-22.
    - (j) すべての事と比較した、キリストを知る知識に対する評価——ピリピ 3:7-8. I ペテロ 1:8. II ペテロ 1:2-3, 8. 2:20. 3:18.
  - (2) わたしたちは、主がわたしたちに光を賜わって、わたしたちの価値観を徹底的に変えてくださるよう、求める必要があります。それによって、わたしたちは絶えずキリストと彼であるすべてを、わたしたちの超越してすばらしい分として選びます——マルコ 9:7-8. II コリント 2:10. 4:7. I ペテロ 1:8.
  - (3) 「もし、あなたが価値のないことを言わず、尊いことを言い出すなら、あなたはわたしの口のようにになる」——エレミヤ 15:19. 参照、16 節 :
    - (a) わたしたちは主の言葉を、割り当てられた食物よりも尊び、主を彼の言葉の中で、良き地の実際として味わわなければなりません。良き地には養う乳と新鮮な蜜が流れています。それはわたしたちが、神の民の満ち満ちた救いのために、彼らに分与するためです——ヨブ 23:12. I ペテロ 2:2-5. 詩 119:103. 出 3:8. 申 8:8. 雅 4:11 前半.

(b) わたしたちは主の言葉を、地上のすべての富よりも尊ばなければなりません。それは、わたしたちが神の託宣を語って、キリストの計り知れない豊富を分与し、神のさまざまな恵みとすることができるためです——詩 119:72, 9-16. エペソ 3:8. II コリント 6:10. I ペテロ 4:10-11。

4. わたしたちはみな召会の中で三つの役割を持つ肢体、「マルタ・ラザロ・マリア」でなければなりません。これはわたしたちみなが持つべき正しい名前です：
- a. 召会生活には、主のための勤勉な奉仕、主の復活の命の生ける証し、主に注ぎ出された絶対的な愛がなければなりません。
  - b. 真実な召会生活の中では、主に対する奉仕がささげられ、主の証しが人に見られ、主に対する愛が注ぎ出されます。これは、主のからだの真の表現であり、このからだは主を内容とし、主を表現する器です。